



松本先生の人生チャート

高校で山岳部に入る → 釣りが大好きで水産系の大学へ → 年間100日は野宿しながらの釣り旅 → 新潟に戻って、海洋高校の教諭に → 社会人山岳会に入り、岩壁や氷壁をよじ登る → 能水商店を立ち上げる → 39歳高校教諭を辞めて、社長になる

Now!

U
リターン

松本先生は、どんな人生を歩んできたのかな?



普段は聞けない

Vol.5

先生のお話

16年間勤めた新潟県立海洋高等学校を退職した松本将史さん。
2018年4月より、非常勤講師として週に1度授業を担当しながらも、株式会社能水商店の社長をしています。

1 教員を辞め、高校生が開発・製造した水産加工品を売る会社の社長へ

はじめは、高校生が地元の川に遡上したサケを原料にした魚醤「最後の一滴」を、長年の試行錯誤を経て開発したことです。地元の試験販売で「美味しい」と評判になり、首都圏での販売イベントにも参加するようになりました。高校生自身が開発・加工し、販売することで、自信をもって社会人として踏み出していく生徒が増えました。そんな姿をみて、「糸魚川市の水産業を活性化し、高校の魅力で地域に人を集められる可能性があるのではないか」と、高校生のキャリア教育と地域の振興を兼ねた「能水商店」を2015年に立ち上げることにしました。高校の同窓会や糸魚川市の協力を得て、学校の近くの元食品工場を活用して水産加工工場を作ることもできました。それから、高校教員をしながら、能水商店の経営もする生活が続きました。生産が間に合わず、学校が終わった後、夜中まで工場で作業することもありました。材料の仕入れや売り先の新規開拓など、ほぼ一人でやっていたのですが、全部楽しいので睡眠時間を削っても負担は感じませんでした。そのうち、漁師さんから流通に関わる方、販売店、消費者までみんなが喜んでくれる商品を作り続けるこの仕事に24時間費やしたいと思うようになり、2018年春に教員を辞めて能水商店の社長になったんです。



海洋高校の食品研究部は、能水商店を拠点に活動する。放課後と土日を使って、商品開発や製造に関わったり、各地の展示会で商品紹介をしたり活躍している。

2 高校時代から道なき道を開拓してきた

高校時代は山岳部に入り、トレーニングで地元の角田山に登っていたのですが、登山道ではなく沢や藪から山頂を目指すのが好きでした。釣り好きが高じて入った水産系の大学時代には、野宿をしながらの釣り旅行ばかり。新潟に戻ってきてからは、社会人山岳会でアルパインクライミングに入れ込みました。この趣味のおかげで、ストレス耐性がだいぶ高まったと思います(笑)。



3 メーカーとして川に遡上したサケの市場価値を高めたい

私達の商品の主原料であるサケ資源は、各河川の漁業協同組合の稚魚放流事業により維持されていますが、低い収益性や後継者不足が問題となっています。これからは、メーカーとして付加価値の高い商品づくりと販路開拓に努め、サケの市場価値を高めるつもりです。また、若い社員や高校生も稚魚放流事業に参画することで、生産から販売全てに関わる地域に根づいた企業に成長させたいと思っています。



生徒が養殖したマコブのそばやおかず味噌など多彩な商品展開!



やりたいことのイメージを持ち続けて努力しよう!



出典